



fu fu fu 幸せを感じたとき...

# 社会福祉法人しがらき会

信楽青年寮  
ワークセンター紫香楽  
しがらき地域生活支援センター  
障がい者雇用・生活支援センター(甲賀)

《法人事務局》信楽青年寮内

TEL0748-82-0588 FAX0748-82-0961

URL <http://www.shigarakikai.or.jp> E-Mail [shigaraki@miracle.ocn.ne.jp](mailto:shigaraki@miracle.ocn.ne.jp)

## 『新たな挑戦』新機能型ホームの創設

法人地域支援部長(しがらき地域生活支援センター長) 滝井康雄

### 『町の中ではたらき、町の中で暮らす』

「民間下宿」の開所から五八年、信楽の地域生活支援はグループホーム(住まい)の展開を軸として創られてきました。現在は自立生活訓練型ホームから介護型ホームまで七つの形態(十六か所)が在ります。来年度、さらなる地域生活支援の充実と安定を図る目的で高齢・重度者対応ホームの新設を計画しました。

このホームは利用者の住まいの選択肢がさらに広がること、専門的な人材の育成に繋がること、また、相談支援事業、短期入所事業を併設することで既存のホーム、信楽青年寮、紫香楽ヴィラ、ワークセンター紫香楽など町内福祉事業所、関係機関と連携し、地域の安心ネットワークの構築と居住生活支援の拠点として機能することを目指しています。

新機能型ホームはしがらき会の地域支援の拠点となり、町の中の暮らしの安心感をより一層高めることができるものと考えます。(別記参照)

これからは本人たちの思い、先達の思い、自分たちの支援の「カタチ」をしっかりと知り、その上でこれからは多様化していく制度の中で、フレない地域支援、専門職として「質」を求める支援力の研鑽に努める所存です。今後とも皆様のご意見はじめ、お力添えを切にお願い致しますとともに、どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

- ①新設ホームにおいては高齢、重度の方が安心して暮らすことができる空間と支援体制が組まれます。また、日中活動はワークセンター紫香楽、信楽青年寮(生活介護事業)と連携することができま。
- ②短期入所事業の居室は、ホームの居室と分けられています。ここではホーム生活の体験利用、緊急一時的な利用、レスパイト利用、入所施設生活から地域生活に移行する際のワンクッション利用等、それぞれの地域生活ニーズに対応できる場所となっています。
- ③相談支援事業は、町の中の暮らしの相談窓口として事務所機能が併設されています。

### しがらきせいのん「GOTOご当地レストラン」

今年度は新型コロナウイルスの拡大に伴い旅行を中止とさせて頂きましたが、利用者の皆さんに少しでも楽しんで頂ける催しを行いたいと思ひ『Go To ご当地レストラン』と題しまして、日本のご当地料理をレストラン形式で召し上がっていただく企画を開催しました。旅行に行っているような気分を味わって頂く為に、富士山や名古屋城、シーサーなど日本各地の観光名所をイメージした装飾を施し、ご当地料理を含む全23種類の料理を召し上がっていただきました。利用者の皆さんが数々の料理を「美味しいわ〜珍しい料理を有難う」と嬉しそうに食べておられる姿が印象的でした。コロナウイルスの感染対策を取りながらも、利用者の方に喜んでいただける企画を開催する事が出来たことを嬉しく思います。(藤川 記)



### 常勤職員・パート職員 募集中です!!

しがらき会では職員を募集しております。年齢、性別、資格などはご相談に応じて対応させていただきます。障がい者福祉にご興味のある方は、お電話ください。

職種：支援員・ヘルパー・調理員  
看護師・世話人  
看顧師

(連絡先)  
しがらき会法人事務局(信楽青年寮内)  
担当：中井・岩永  
TEL 八二一〇五八八



(仮称) 地域共生型拠点ホーム  
 ■多機能型共同生活援助事業(多機能型グループホーム)  
 ・機能共同生活援助事業(定員7名)・短期入所事業(定員3名)  
 ・相談支援事業  
 ■建設場所: 紫香楽ヴィラ敷地内 信楽町 2392-5  
 ■開所予定: 令和3年4月(予定)  
 【建物の整備内容】 <構造>階数: 鉄骨1階建  
 <建物面積> 494㎡



### Aiamak Arama!!

シンガポール×甲賀の  
アールブリュット交流作品展  
二〇二一年一月十四日(木)〜二月二十三日(土)  
あいこうか市民ホール展示室

今年は新型コロナウイルスの影響で、東京オリンピックの開催が危ぶまれている状況ではあります。甲賀市は、シンガポールのホストタウンとしてパラリンピック受け入れを行っています。今回、そのことが契機となり、右記の日程で障がい者アートの文化交流作品展が実施されました。この展覧会は、甲南町にありますやまなみ工房様のお誘いを受け、信楽青年寮の利用者さんたちが制作された作品も出展させていただきました。

(テーマ)文化・教育

〈主な内容〉国際障がい者交流センター(ビッグアイ)の協力のもと、シンガポールで障がいのある人々の芸術活動を支援する非営利の事前事業団体「ベリ!スペシャル・アーツ・シンガポール」で見出されたアート作品と、甲賀市(やまなみ工房・信楽青年寮)で活動する国内外で高い評価を受けているアールブリュット作品を一堂に会して展示交流を目的とした作品展を開催。文化を学ぶと共に両国の作品に触れる機会を作り出す。また、この機会を未来を担う子供たちにも多く知ってもらえるような企画やこれまで関心のなかった市民にも広く周知できるようにイベント企画を提供する。(石野 記)



## ワークセンター紫香樂より

### こんにちは

自動販売機設置しました！

ワークセンター紫香樂本館（神山）とヴィラ作業場別館（勅旨）に伊藤園さんの自動販売機を設置しました。地域の方はもちろんさまざまな方にご利用いただいております。利用者さんの中には毎日何を飲もうかと考え楽しみにされている方もたくさんおられます。この自動販売機の売上金の一部は利用者さんのお給料になることもあり、今後またたくさんの方に利用いただくと幸いです。

また、ワークセンター紫香樂では以前より缶リサイクル作業をしています。ヴィラ作業場別館勅旨（の駐車場内の自動販売機横に空き缶回収箱を設置しており、アルミ缶やスチール缶（お菓子の缶等も可）などを回収しているのですが、地域の方のご協力もありたくさんの方を持って来ていただいております。本館（神山）でも回収をさせていただきますが、回収箱がございませんので職員にお声掛けください。いつもご協力いただき本当にありがとうございます。引き続き、缶回収のご協力をよろしく願います。

（お問い合わせ）ワークセンター紫香樂  
担当 坂口・杉本（電話）〇七四八八二二九八



## しがらき地域生活支援センター

### 「うろむろ」だより

『町の中ではたらく、町の中で暮らす』。しがらき地域生活支援センターでは、障がいのある方の「自分らしく、当たり前前に暮らしたい」という思いの実現を目的として、相談支援事業『うろむろ』・居宅介護事業『らいふ・かれっじ』・共同生活援助事業『はあと・ふあくとり』の事業を展開し、地域生活支援をデザインしています。日々の暮らしの中の利用者さんの思いや希望、困りごとを受け止めるために、この三つの事業が仕組みとして関連しながら機能することで、より豊かな暮らしができるのではと考えます。これからも利用者さん一人ひとりの地域の暮らしの安心拠点として取り組んでいけたらと思っております。

現在、世間で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響により、感染予防の為に利用者のみならずさまざまな制限を余儀なくされた暮らしが続いています。コロナ禍でなければ考えなかった暮らし方、楽しみ方を体験することで、改めて暮らしの中にはいろいろな選択肢があることを知る機会になりました。

コロナ後は、この大変な経験を活かし利用者のみならず職員も今まで以上に多くの選択肢を持った楽しい暮らしができると思います。もう少し頑張っていきたいと思えます。

（藤田 記）



## 障がい者雇用・生活支援センター

### （甲賀）だより

障がい者雇用・生活支援センター（甲賀）は、昨年十月に事務所を移転しました。これまでは甲賀合同庁舎（甲賀市水口町水口六二〇〇）の一階に事務所がありました。滋賀県が管轄する建物ということで土日祝日は閉鎖しており、平日も一七時一五分には正面玄関は閉まってしまいます。そのため、就労されている方には利用しにくいところもあったかと思えます。土日は他の場所を借りて面談したり、交流会等をするということもありました。

新事務所は、以前より数百メートル離れた場所になりました。住所は甲賀市水口町晩三三四四となり、当センター専用の事務所になりました。そのため、来所される方の必要な時に使用することができ、就労されている方も仕事後に面談に来やすくなり、その人に応じて開所することができるようになりました。また、多目的交流室というスペースもあり、他に場所を借用することもなく、交流会等の事業ができるようになりました。

当センターは就労されている障がいをお持ちの方のサポートはもちろん、就労を目指す方のサポートもしています。また障がいをお持ちの方を雇用されている企業様のサポートもしています。相談してみたいことがありましたら、ご連絡していただき、来ていただければと思います。

連絡先：障がい者雇用・生活支援センター（甲賀）

（電話）〇七四八八二二九八

（ファクス）〇七四八八二二九八

（大倉 記）



## 職員コラム

私の母は、昨年5月に亡くなりました。亡くなった当初は後悔の念がどっと押し寄せ自分を責めてしまう事もありました。元気な時にもっと話しておけばよかった。いっぱい写真を撮らなければよかった。旅行や外食に行ったらよかった、もっと大切にしておけばよかったと：もうすぐ亡くなって一年。やっと今では母との楽しい時間が過ぎた事に感謝できるようになりました。そして利用者さん達にもたった一瞬だったとしても皆さんに出会えた事の奇跡を感じ、失敗して落ち込んだり、ささいな事で笑いあったり、日々どうしたらよいか模索しながら勉強できる事に感謝しています。（M・K 記）

## ダブルクリック

私がしがらき会で働き始めて、今年で5年目になりました。仕事としては一日・一月・一年のパターンを掴んで、出来ることも少しずつ増えてきました。しかし私達の仕事で最も大切な部分は『利用者さんと向き合うこと』だと考えています。利用者さんと向き合うということは、その人のバックボーンを知り、その人との関係性を築いていった延長線上に成り立つと考えています。そう言った面では、まだまだ『駆け出しの5年目』なのだと感じています。仕事に慣れた仕事ができるようになった、というわけでもありません。昨年、とある行事内容を考案中に新卒で入ってきた後輩から『なぜココはこうなんですか？』と聞かれた時『毎年そうだから』と答えた後、『なぜ？』を考えなくなっている自分がいることに気がきました。毎年のことだからと、その物事の本質を捉えずに習慣化してしまっていることに愕然としました。良くも悪くも仕事に慣れてしまっただけで、物事を本質的に見れていなかったのです。この事を気付かせてくれた後輩にはとても感謝しています。新しい視点で物事を見て新しい刺激をくれる、貴重な存在です。

これから先、物事の本質を捉えて多角的に考えて行動できる、そんな職員をめざしたいです。

（T・Y 記）